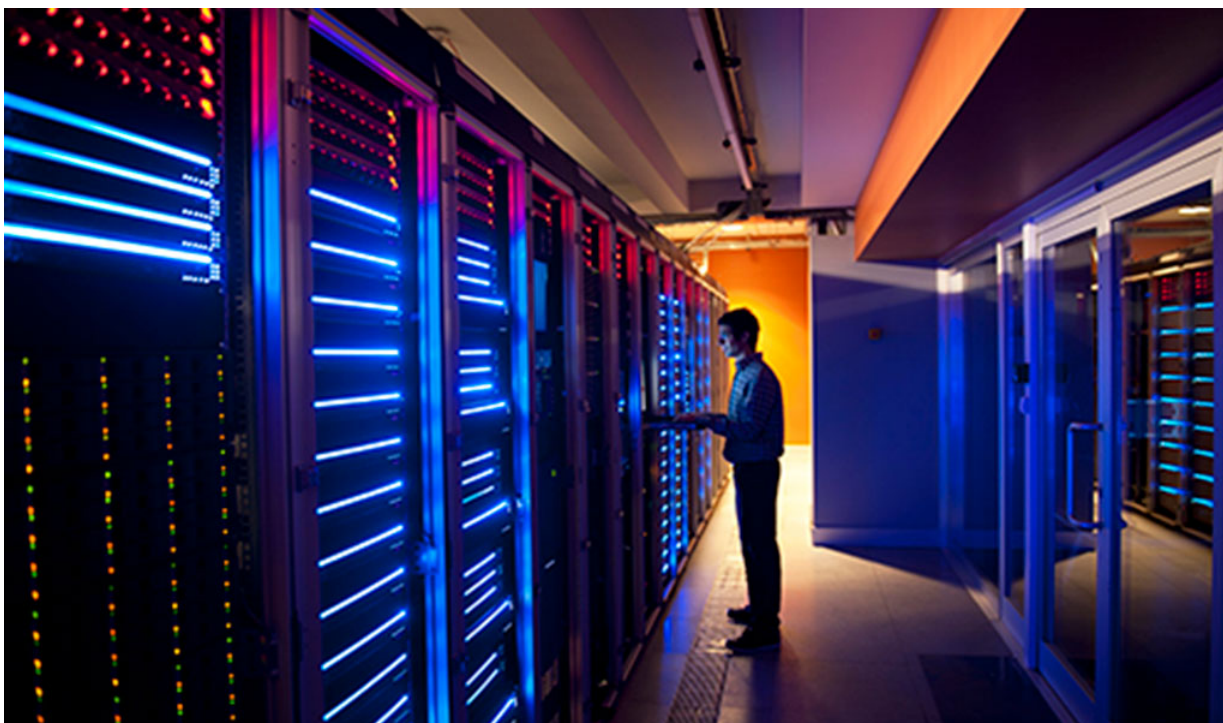


今週のグラフ：巨大企業の台頭

フェデリコ・J・ディエス、ダニエル・リー

2018年6月6日



先進諸国の「スーパースター」企業の市場支配力が高まりつつある。(写真: baranozdemir/iStock by Getty Images)

航空会社から製薬会社、ハイテク企業に至るまで、大手企業の経済的な富と力が拡大する中、ごく一部の企業が市場支配力を握り、過度の集中が生じるのではないかと、という懸念が高まっている。特に先進諸国では、高まる企業の市場支配力が原因で、企業利益の増加に比例しない投資の停滞や、企業の活力の減衰、生産性の伸び悩み、そして雇用労働者に支払われる所得の比率の低下が引き起こされていると指摘されている。

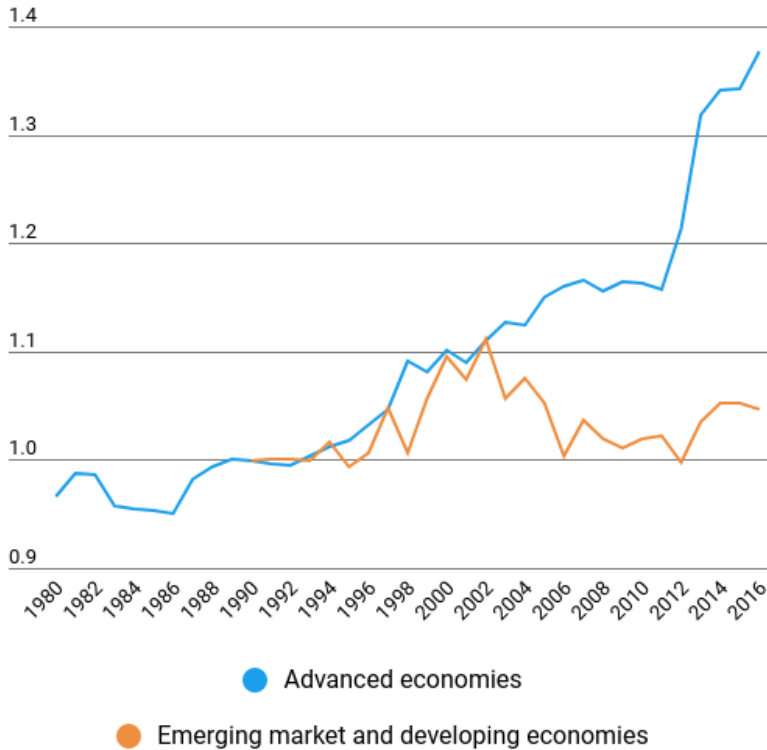
巨大企業の台頭とともに、このような傾向が今後も続く可能性があるのか、そしてその場合には、デジタル時代において公正で活発な競争を維持するために、政策の一部を見直す必要があるのか、といった新たな疑問が生じている。しかし、企業の市場支配力を測るのは容易ではなく、市場集中度や利益率といった一般的な指標は、誤解を招くこともある。

私たちの「今週のグラフ」は、この問題が大手テクノロジー企業にとどまらず、より広範囲に及んでいることを示している。このグラフは、74 か国の上場企業に関するデータを扱った、近日公表予定の IMF ワーキングペーパーに基づいている。具体的には、先進国と新興国・開発途上国の価格設定を比較し、企業全体を通じた財とサービスのマークアップの平均値の推移を表している。マークアップとは、企業が自社の製品に定める販売価格を、その製品を 1 単位多く生産するためにかかる費用と比較し、割合として表したものである。これが市場支配力の尺度の一つとなる。

Market power

Markups in advanced economies have been rising since the 1980s.

(average markups of listed firms in each country income group, index 1990 = 1)



Source: Díez, Leigh, and Tambunlertchai, forthcoming, "Global Market Power and Its Macroeconomic Implications," IMF Working Paper.

Note: Figure based on data for 33 advanced economies and 41 emerging market and developing economies.



このグラフからは 2 つの明白な事実が見てとれる。第一に、先進国におけるマークアップは 1980 年以降、平均 43% と著しく増加しており、この増加傾向は過去 10 年間で加速している。第二の点として、先進国と開発途上国ではマークアップの増加はずっと緩やかであり、1990 年以降の増加率は平均して 5% である。

より詳細な分析によると、先進諸国におけるマークアップの増加の大きな要因は、「スーパースター」企業である。その他の企業のマークアップが基本的に横ばいである中、市場支配力の拡大を成し遂げた企業だ。興味深いことに、このパターンは情報通信技術セクターのみでなく、経済セクター全般に広く見られる。

先進諸国の企業の市場支配力の拡大は、懸念すべき状況なのか。一言で答えるならば「イエス」だ。この傾向が継続するならばなおさらである。私たちの研究では、マークアップ率が低いレベルから上昇する場合、最初は投資とイノベーションが増加するが、市場支配力が過度に強まった場合には、この相関関係が負になることが明らかになっている。さらに、市場集中度が高い産業においては、マークアップと投資・イノベーションの間に著しい負の相関が生じる。

同研究ではまた、企業における労働分配率とマークアップの間の負の関係が確認されている。つまり、市場支配力が拡大する産業では、労働分配率が低下するということになる。言い換えれば、市場支配力が強くなると、企業の収益のうち労働者に分配される比率が下がり、利益の比率が高くなるということである。

政策に関してはどのような影響が及ぼされるのか。これは世界規模の市場支配力の拡大の背景にある要因によるであろうが、この点についてはまだ議論が続いている。ソフトウェアを始めとする無形資産の増加や、ある製品の利用者数が増えるとその製品の価値が上がるネットワーク効果、あるいは独占禁止法の執行が不十分であることなどが、原因として考えられる。これらを識別するために、さらなる研究が必要である。

IMF、世界銀行、経済協力開発機構が近日開催する[会議](#)では、企業の市場支配力、競争政策、製品市場の規制・規制緩和、そしてこれらがもたらすマクロ経済効果について、掘り下げた考察が行われる。

2018年 IMF・世界銀行春季会合にて開催されたセミナー「[Digitalization and the New Gilded Age](#)」の動画を参照されたい。

[embed video: <http://www.imf.org/external/mmedia/view.aspx?vid=5772879577001>]



フェデリコ・J・ディエスはIMF調査局構造改革ユニットのエコノミスト。IMFの前には、ボストン連邦準備銀行で勤務。企業市場支配力、技術革新、起業、企業組織、インボイス通貨などを研究テーマとして取り上げている。ウィスコンシン大学マディソン校で経済学博士号を取得。



ダニエル・リーはIMF西半球局の課長補佐。国際マクロ経済学分野で、財政・金融政策に焦点を当てた研究を行っている。ジョンズ・ホプキンス大学で経済学博士号、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで経済学修士号を取得。